



気持ちよく使える公園に

1月21日、恵那東中学校の1年生が総合的な学習の一環として、老人ホームや市内の幼稚園、保育園などでボランティア活動を行いました。その中の一つとして阿木川沿いの公園でもごみ拾いが行われ、生徒16人が参加しました。袋いっぱい空き缶やごみを拾った鈴木敦未さんは「毎朝ごみを拾っている方がいると聞いていたのに、思ったよりもごみがあった」と、公園で遊ぶ小さな子どもたちのためにも、きれいに掃除をしていました。

小さなごみも見逃さないよう、一つ一つ拾いました

学校給食ってどんな味

1月24日と25日、恵那市学校給食センターで学校給食フェアが開催され、給食の試食会が行われました。全国学校給食週間（1月24日～30日）にちなんで開催されたこのフェアは今年で12回目を迎え、24日には29人が参加しました。今回から日本各地の料理を味わおうと、昆布のてんぷら、石狩汁など北海道を意識したメニューが登場。参加した親子連れなどは談話を楽しみながら、おいしそうに給食を食べていました。

25日はクジラの竜田揚げなど懐かしいメニューを堪能



歌でつづる東濃の昔話

12月19日、恵那文化センターで「親と子に捧げる創作音楽劇・ふしぎな森の木のはなし」が上演されました。この音楽劇は武並神社の境内にある鎌倉杉を題材にした木の話など東濃地域に伝わる昔話の4話構成。一般公募で集まった市民75人が参加し、6月から練習を重ねてきました。本番では練習の成果を発揮し、ソロや全員での合唱など熱の込められた歌声を披露すると、満員の客席からは大きな拍手が送られました。

出演者が一丸となって作り上げた、迫力ある舞台

20歳の門出を祝う

新市誕生後初めての成人式が串原地区は1月3日に、串原を除く地区は1月9日に、旧市町村ごと6カ所の会場で開かれました。今年の新成人は旧恵那市576人、岩村町75人、山岡町77人、明智町90人、串原11人、上矢作町34人で市内全体では863人。各会場では記念写真の撮影やスライド・ビデオの上映、合唱、アコースティックバンドのライブなど、旧市町村から引き継がれた趣向を凝らした催しが行われ、新成人の門出を祝いました。

岩村町では新成人による合唱が披露された



文化財を火から守れ

1月26日、文化財防火デーにちなみ大井町の中山道ひし屋資料館で防火訓練が行われました。訓練には資料館関係者や地域住民など約40人が参加。資料館近くから出火し延焼の恐れがあるとの想定で、消防署への通報訓練、見学者の避難誘導、バケツリレーによる初期消火訓練が実施されました。岩村町の「江戸城下町の館勝川家」と明智町の「おみろくさん」でも訓練が実施され、参加した人たちは改めて防火の意識を高めていました。

岩村町の勝川家では消火器による消火要領を学んだ



中野方ダムで試験湛水始まる

平成13年度から建設が進められてきた中野方ダムで試験湛水が始まり、1月11日、県や市、地元関係者が出席して記念式典が開かれました。中野方地区は水不足が深刻で井戸と沢水に頼って生活をしており、同ダムの完成によって、約500戸、2200人に水道水が供給される予定となっています。ダムは木曾川水系中野方川の上流に建設されており、えん堤の高さは41.7m、長さ390mで総貯水容量は41万1千立方m、総事業費は約115億円です。

試験湛水が始まった中野方ダム = 1月19日撮影